

衆議院議員選挙に関する統計的解析

2001MM035 河村 涼子

指導教員 松田 眞一

1 はじめに

わが国では1955年に自由民主党と日本社会党の2大政党を中心に構成された55年体制が長く続いていたが昭和61年ごろからその体制は崩れはじめた。これで選挙、特に衆議院選挙はどのような変化を表すのか。本研究は、過去の選挙結果をもとに各選挙での傾向を調べ、特に特徴が現れた都道府県を取り出して考察していく。

2 データについて

昭和47年から平成12年の間で行われた10回分の衆議院議員選挙を扱う。データは日本統計年鑑[1]の都道府県別衆議院議員選挙を用いた。サンプルは都道府県、政党を変数とする。解析方法によって得票率を用いたり、得票数を用いたりしている。

3 解析方法

解析方法は主成分分析と因子分析、クラスター分析を用いた。

4 選挙の解析

4.1 主成分分析

● 昭和47年

第1主成分 正:自由民主党(以下自民党)
負:公明党、日本共産党(以下共産党)、民社党

「自民党対日本社会党(以下社会党)以外の野党」

第2主成分 正:自民党、公明党、共産党、民社党
負:社会党、その他、無所属

「自民党と社会党以外の比較的小さな野党対社会党」

● 平成2年

第1主成分 正:自民党、社会党
負:公明党、共産党、民社党、無所属

「旧体制を支持するかしないか」

第2主成分 正:無所属

負:社会党、公明党、共産党

「無所属の有力者を支持するか他党を支持するか」

昭和47年から昭和58年までは1955年に整った55年体制の形を大きく崩すことなかった。平成の年号になる前後から旧体制は崩れ、新しい政党が誕生したが実際は短命ではあったため長い期間、政界に影響を与えることはなかった。

4.2 因子分析

● 昭和47年

第1因子:公明党、共産党、民社党、無所属の4変数が反応している。これらは2大政党を取り巻

く野党群である。

野党

第2因子:自由民主党、日本社会党、その他の3変数が反応している。55年体制を引きずった形といえる。

旧体制

● 平成5年

第1因子:公明党、日本新党、共産党が反応している。2大政党を取り巻く野党の群である。野党第2因子:自民党、社会党、その他が反応している。55年体制の2大政党といえる。

旧体制

第3因子:無所属が反応している。個人支持第4因子:新生党が反応している。新生党は自民党から離党した小沢一郎氏らによって結成された。

自民党から離脱した新生党を支持

● 平成8年

第1因子:自民党、新進党、共産党が反応している。新進党は多数の小さな政党が集まってできた政党であるのでそれぞれの政党を支持していた有権者がついてくるかたちで大きく飛躍し、2大政党の一つになるのではないかと期待されていた。

新しい2大政党

第2因子:民主党、無所属が反応した。民主党は管氏と鳩山氏を中心に結成した政党である。

民主党(鳩山、管)

第3因子:社会民主党(以下社民党)、新社会党、その他が反応した。社民党は社会党が改名したものであるが55年体制が完全に崩れたため小さい政党に衰弱していった。

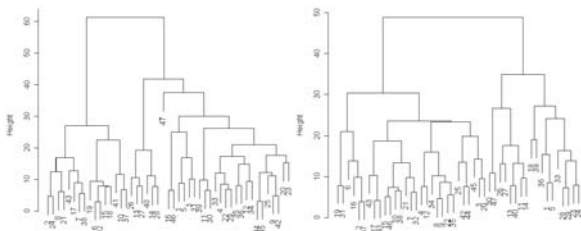
小さい政党

平成5年まで旧体制の名残を窺い知ることができるが小さな政党を支持する因子もあり、変化を求めようとする地域もあることがわかる。また平成8年以降は旧体制の影は消え、新しい政党を支持することで新しい2大政党へ進展して欲しいという地域が多くなったことがわかる。

4.3 クラスター分析

図1 昭和47年

図2 平成2年



● 昭和47年

左から第1群、第2群、第3群とし、

- 第1群; 青森, 新潟, 他 14 県. 自民党支持群
- 第2群; 東京, 神奈川, 京都, 大阪, 他 2 県. 野党支持群
- 第3群; 北海道, 愛知, 他 23 県. 2 大政党支持群
- 平成 2 年
- 左から第1群、第2群とし、第2群を左から A 群、B 群に分ける。
- 第1群; 青森, 新潟, 他 27 県. 自民党支持群
- 第2-A群; 北海道, 愛知, 他 8 県. 2 大政党群
- 第2-B群; 東京, 神奈川, 京都, 大阪, 他 4 県. 野党支持群

自民党を支持する群と野党を支持する群、2 大政党を支持する群の大きな3つの支持傾向が見えてきた。

5 都道府県別に見る

各分析で主成分分析では標準化した主成分得点が ±2 以上を目安に、因子分析では因子得点が +2 以上を目安としたときに他の都道府県と離れて反応している都道府県が見つかった。それらは他のものとは違う特徴をもっていた。その中から東京都、大阪府、愛知県を取り上げる。クラスター分析では都道府県の違いを見つけるのは困難なので主成分分析と因子分析で扱った都道府県を取り上げる。

図3 昭和47年主成分得点散布図

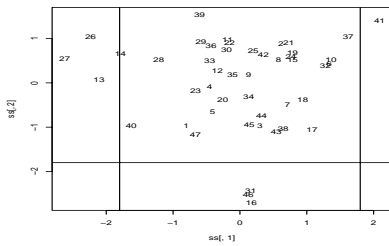
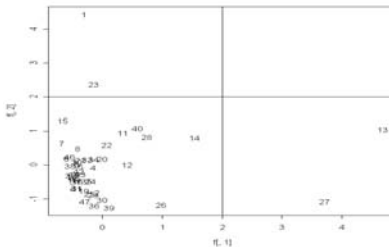


図4 昭和47年因子得点散布図



- 東京都
- 主成分分析; 平成に入ってから自民党支持が増えてきた
- 因子分析; 同じ地域の中で野党支持と2 大政党支持が対立している
- クラスター分析; ほとんど野党支持の群に入る

よって、野党支持の色が強い地域であるといえる。その中で因子分析の結果に出たように2つの因子が反応したのは地方から上京してきた人ともともと東京都に住んでいる人とが非自民党支持という共通点は持っているものの、支持する野党が違うために2つの支持が対立したと思われる。

- 大阪府
- 主成分分析; 野党支持の基盤
- 因子分析; 野党の因子に他の都道府県より反応
- クラスター分析; ほとんど野党支持の群に入る
- よって野党支持の基盤を持っている
- 愛知県
- 主成分分析; 他の都道府県と離れなかった
- 因子分析; 2 大政党を支持する
- クラスター分析; 世論に影響を受けて野党に支持が傾くこともある
- 民主王国とされる愛知県だが、他の野党政党よりは支持されているが民主党が1党で大きな支持を得ているといったことではない。そのかわりに2 大政党の支持が強いことがわかったので、民主党が2 大政党の一つになれば愛知県での民主党支持が増え、民主王国であるといえる根拠となる統計的反応を見せる時が来るのではないだろうか。

6 日本を見る

前節にあげた都県以外の都道府県の傾向も参考に日本全体の傾向を考えると、まず、2 大政党を維持してきた日本政治の崩壊と新しい試みは成功したような失敗しているような、どちらともいえない結果を作ったことである。特に細川内閣や新生党、新進党は野党が総力をあげて結成したものであり、国民からも大きな期待を受けているかのように野党支持の地域以外にも支持されていたにも関わらず、とても短命で日本政治に影響を与えるほどにならなかった。そして、野党支持や非自民党基盤の地域で自民党の支持が増えてきているということである。今後、2 大政党になりうる自民党と民主党は2003年の衆議院議員選挙では順調に2 大政党への勢いをつけた。平成16年には年金未納問題で足を引っ張り合い、管氏、鳩山氏は民主党代表から退き、勢いが衰えていくのではないだろうかと考える人は多くいると思われるのでこれから安定した体制になるには時間がかかると推測している。

7 おわりに

地元愛知県は報道にあるような非自民党の地域ではないことがわかった。次回の選挙からは報道を鵜呑みにせず、自身の考えで判断することが必要である。また今後も健全な政治が行われることを願っている。

参考文献

- [1] 統計委員会事務局, 総理府統計局, 日本統計年鑑, 1949-2004.